

第55回大方の秋まつりと 第5回黒潮町まるごと産業祭

11月12

日(日)、

土佐西南

大規模公

園体育館

周辺で、「第

55回大方

の秋まつり」

と「第5回黒潮町まるごと産業祭」

が合同で開催され、昨年を上回る約7000人が来場しました。

体育館では、お茶席や書道、生け花、絵画や工芸品など一般の方の作品が展示され、体育館周辺では、黒潮町の様々な特産品が販売されました。特設ステージでは歌や踊りなどの発表が行われ、日頃の練習の成果を発揮しました。



作品を鑑賞する人々



子どもたちのダンス

商工会青年部の天日塩焼きそばや、大方高校のかつおタタキバーガー、黒潮町缶詰製作所の缶詰販売など、地元の特産品がある出店や、

地元で古くから栽培されている和紙の原料の若山楮の蒸し剥ぎ体験コーナーや、幡東森林組合による木材の販売コーナーなどもあり、来場者が黒潮町の産業をまるごと体験できる祭りとなりました。

また、土佐くろしお鉄道・西南交通バスサポーターズクラブ事務局による反射神経体験コーナーやボンネットバス乗車体験、ゆるキャラのサニーくん・サンコちゃんとの撮影などもでき、大人から子どもまで楽しめました。



にぎわう会場



サニーくん

地域の支え手育成 認知症サポーター養成講座

黒潮町介護保険事業所等連絡協議会と地域包括支援センターの共催による「認知症サポーター養成講座inおおがた」が10月24日(火)に開催され、約40人が受講しました。

同講座は、認知症に悩む人が住みやすいまちとなるよう少しでも多くの人に理解してほしいという思いのもと初めて開催されました。金融機関の関係者や地域のボランティア活動を行っている人、役職員などに対し、認知症の人に見られる症状や接し方などについての説明がありました。

講師を務めた濱村美香さんは、「誰もがサポーターになることができます。この講座をきっかけに、優しく温かい気持ちで認知症の人を見守ってほしい」と、地域と認知症患者との関わり方について思いを言葉にしました。

また、参加者で郵便局に勤務の山本順子さんは、「認知症の方には、一つずつゆっくり説明するよう心掛けたい」と話しました。



講師の話に耳を傾ける受講生ら

2017年度第1回つながり・つむぐ 人権・同和教育学習講演会

大方町民館で11月9日(木)、講師に入野小学校・前田浩文校長を迎え、「ともに学ぶ」と題して第1回人権・同和教育学習講演会が開催されました。

同会は、大方町民館と児童館の協力で開催され、学校関係者や生徒をはじめ約80人の来場があり、人権問題への関心の高さがうかがえました。

前田校長は、「人権とは、安心・自由・自信が尊重され、認められてはじめて成り立つ」とこれまでの経験から、いじめや部落差別など様々な人権問題への取組をオリジナルソングにし、弾き語りを交えながら講演を行いました。来場者は熱心に聞き入っていました。



講演を行う前田浩文さん